

いろいろ火の里 
みかわ

ぎわい



さらに若者が集まりやすいイベントを

中学生との議場懇談会 P2~3

夏の暑さ対策への支援は 9月定例会 P4~5

学童保育施設の受け入れ状況は 決算審査特別委員会 P6~8

耕作放棄地の拡大が懸念 一般質問 P10~15

ママさんバレーボールチーム
「チームの力でアタック」 シリーズ⑤
「がんばってます」 P16

No.163
9月議会
2023.
10.15

まじやすいイベントを



いよね 

新しい取り組みをするときに、いろいろな世代からの意見を取り入れられている。

教育の設備などを整えてくれる。

になるには

問 赤川河川敷広場の拡張や大型遊具等を設置してさらに人が集まるようにしては。

答 パルク赤川として完成しました。スケートボードやデイキャンプを楽しむ人が訪れていますが、イベント等も計画されているので多くの人に活用してもらいたいです。

問 みんなが参加できるよう「納涼祭」や「菜の花祭り」などの祭りの規模を拡大しては。

答 「納涼祭」を運営している実行委員会に期待したいと思いますし「菜の花祭り」の充実は町に伝えたいと思います。

問 今まで通りの盛り上がりがあり、高齢者と子どもが関わる町民大運動会を復活させては。

答 コロナが収まりきっていないなか、完全復活にはもう少し時間がかかると思います。

問 隣の鶴岡市では給食費が無料なので、親の負担を減らすよう給食費を無料にしては。

答 みなさんの声を町に届けて無償化について考えてもらいたと思います。

問 少子高齢化で高齢者の一人暮らしが増えているので、シニア世代の支援を増やしては。

答 民生委員の訪問や郵便局との提携などいろいろな形で見守り体制が整っていますが、一番は近所の人達の見守りと考えますので協力をお願いします。

問 若者が町外に出て行かないように若者向けの施設を多くつくってほしい。

答 町では今後産業団地を整備して企業誘致に取り組んでいく予定です。

問 町内の施設の一角で、地域の方が作った料理を手軽に売り買いできるようにしては。

答 議会も地元の商売を応援していくため大型商店の空きスペースを町で安く使えないかとか提案しています。

生徒会長 成澤 実莉
これまでの私は、三川町のことについて何も考えることなく、ただ過ごしていました。
しかし、この懇談会を通して自分の住む町について何か気付き、考えることはとても大切なんだなと思いました。
私達は次世代を担う存在として、町や地域に目を向け三川町の発展に貢献できるようにしたいです。
今日は、貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。



中学生の感想

(2)3ページまとめ 砂田 茂



#三川ってここがい

町民みんなが明るく優しい。登下校中でもいつも挨拶してくれる。

地元の食材を多く使っているから給食がおいしい。

三川町がもっと「いい町」

問 子どもから高齢者まで買い物や観光に利用しやすい小回りのきく100円バスを開設しては。

答 町では1回300円で乗れるデマンドタクシーを運行していますが、町外への移動が課題となっています。

問 若い人が移り住んでくれることで、少子化対策にもなるニュータウンをつくっては。

答 町では一軒家を考えている若い世代を呼び込むために住宅地を整備して募集を行っています。

問 学童を増やして児童が取りまきらないことがないようにしてほしい。

答 議会でも関係機関と協議しながら待機児童問題に取り組んできており今後も安心して子育て出来る環境整備に協力して行きたいと思えます。

問 たくさんの方が集まり三川町が活発になるよう「三川花火大会」を開催しては。

答 以前は行われていましたが、現在は鶴岡の花火大会に協賛しています。今後については意見として参考にさせていただきます。

問 「ざっこしめ」の参加制限をなくし、その場で食べられるような大規模イベントにしては。

答 川に親しむ「ざっこしめ」は高校生や青年達の協力がある青少年育成の看板行事です。

問 農業が盛んな三川町らしさをわかってもらえる「菜の花迷路」や「田んぼアート」を設置しては。

答 皆で楽しめることから、ぜひ実現できるよう要望します。

問 地域の人との関わりの機会を増やす「ごみゼロ大作戦」や「ミニスポーツ大会」を開催しては。

答 スポーツ大会の開催は人的交流を深める絶好の機会です。

議員の感想

町野 昌弘

普段は、皆さんのいる席で「こんな町にしたい」と言っているのが私たちで、皆さんの素直な気持ちやユニークな意見が聞けて刺激になりました。

私たち議会は実行可能な政策提言を行っているのですが、今日の中学生の意見が新鮮に感じられ、これからの議会に活かせたらと思いました。

応援へ追加補助 夏の暑さ対策への支援は

9月 定例会

第5回議会定例会は9月5日から11日までの会期で開会しました。諸般報告3件の後、町長提案12件と議長発議1件を原案どおり可決しました。

なお、一般質問は夜間議会で5人の議員が町政全般について質問しました。

補正予算

一般会計に2億7874万3千円を追加し、54億2460万2千円となりました。

◎(主な質疑)

◎民生費

低所得世帯の冬の生活応援事業150万円追加(冬の生活応援として1世帯あたり1万円を補助。当初予算では5千円。

対象は一人暮らし高齢者宅やシングルマザー、重度の障害者がいる家庭等県が2分の1を補助)

問 今年の夏の猛暑は命の危険を感じる暑さだったことから、冬場だけでなく、夏の冷房機への助成は検討できないものか。

健康福祉課長 対象者選定の公平性、支援の継続

性が課題となります。補助金額、財源も検討しなければならず、県が実施していないなか、町独自の支援は考えていません。

◎農林水産業費

農業水利施設原油価格高騰対策事業費補助金に415万9千円計上

問 事業の具体的な内容は。

産業振興課長 電気料金高騰による農業者への影響を緩和するために、農業水利施設を管理する土地改良区に対して、令和5年4月から9月の電気料金の合計から令和3年4月から9月までの電気料金の合計を差し引いた額の2分の1を県が補助し、本町で残りの2分の1を補助するものです。

◎土木費

側溝整備事業に890万円計上

問 当初予算で950万円が計上されている中で増額要因は。

建設環境課長

押切下町



押切下町

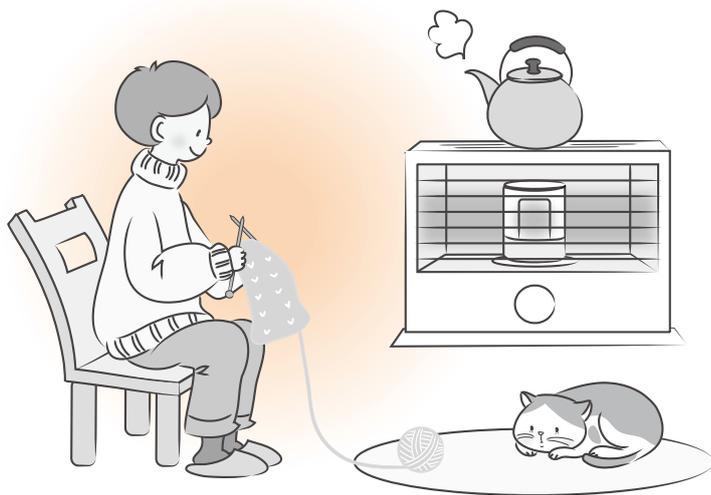
町内会地内の側溝整備事業ですが、当初予算査定時以降の資材費等の増額によるものです。

問 この事業の完成予定は。

建設環境課長 残りの延長が約250mあり、今

年度20〜30mの整備を見込んでいます。単年度ごとに進めていきますので、具体的な完成時期については未定です。

昨年引き続き冬の生活



読者アンケート

1. 議会広報のよく読むページや気になる取り組みはありますか？

一般質問を重点的に読んでいます。議員の方がどこを問題とし、町がどのように考え動いているのかわかるためです。

2. より読みやすい、手に取りやすい広報紙にするにはどのような取り組みが良いかアドバイスをお聞かせください。

表紙・裏面はカラーとなっていてメリハリがあり見やすい。全体的に良くまとめられていると思う。

3. 議会や町への要望等あればお聞かせください。

書道パフォーマンス練習の際、場所を確保するのにテオトル・町体・小学校と予約確認、申請先が違い大変でした。一括管理は難しいのでしょうか。



大瀧しのぶさん（東沼）

条例改正

三川町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例（提案理由）地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の施行による。

契約の締結

「桜木地区住環境整備事業町道桜木6号線外舗装新設工事請負契約の締結」

●契約金額

6094万円

●工期

令和5年12月28日

議長発議

請願第1号「放課後児童クラブの待機児童解消のために抜本的な対策を講じることを求める請願」に対する請願取り下げについて

請願者より請願取下げ申出書が提出され、それを許可。

受け入れ対応は?

9月7・8日の2間にわたり、決算審査特別委員会を開会しました。委員会は議長を除く9人で構成し委員長に鈴木淳士委員、副委員長に鈴木重行委員を選出し審査を行い、承認しました。

学童保育待機児童ゼロに

鈴木 重行委員

◎児童福祉総務費

問 学童保育施設の受け入れ児童数と、今後の計画は。

子育て支援室長 テオトル内の施設の床面積では

135人の受け入れが可能ですが、支援員が安全に見守られる人数を



学童保育施設内で勉強する子どもたち

104人と設定しています。

押切小学校での20人と合わせ、今後も124人の定員と計画しています。

農業用廃棄物に支援策を

◎農業総務費

問 農業用使用済プラスタックの適正処理を図るため、処理金額も高騰していることから補助率も上げるべきでは。

産業振興課長 処分費に限らず、燃油・資材費の高騰が農業経営に影響を及ぼしていると理解しています。支援策について今後、検討する考えです。

老人福祉の充実を

佐藤 栄市委員

◎老人福祉費

問 寝具洗濯乾燥等サービス事業の利用要件と、町民への周知方法は。

健康福祉課長 目的としては、寝たきりなどで寝具の衛生管理が困難な一人暮らし高齢者や高齢者世帯、疾病などで寝たきりの65歳以上の人に支援しているものです。

今まで利用している人

には翌年度に直接案内をして利用を確認しているほか、民生児童委員が必要な人にサービス案内をしたり、年2回みかわ広報で広く周知しています。

学童保育の

自治体におけるDXの推進の研修内容は

小林 茂吉委員

◎一般管理費

問 職員の先進地視察研修のテーマである「自治体におけるDXの推進」の講義内容は。

企画調整課長 システムの標準化と共通化へ向けた取り組みと課題解決のヒントを学ぶと共に、職員一人ひとりが最新のセキュリティ情報を素早く取得し、対策をとる必要性等を受講者より報告を受けました。

町民体育館の修繕は計画的に

◎体育施設費

問 町民体育館の数回の雨漏り修繕の状況から、令和10年度に計画されている外壁等改修を早めるべきでは。

教育課長 その都度の修繕で対応するか、前倒しで大規模修繕を行うかは、財政所管との協議により判断します。

町営バスの新車への更新は

町野 昌弘委員

◎町営バス運営費

問 町営バスが古くなっているようですが、再リース時に問題にならないか。

総務課長 リース契約は漫然と使えるからと言って契約するのでは無く課題等を踏まえながら検討しました。今後も運営に支障が出るような事態は避けなければならぬので、リース期間中であっても事故が無いような形で対応していきます。

車イスへの対応は

問 町営バスに車イスが利用できるバスの計画は。
総務課長 関係する団体からの意見を聞きながら今後のバスリースを考えしていきます。

アスベスト調査の必要性は

小野寺 正樹委員

重点作物・選定作物の拡充を

◎農村環境改善センター費
問 三川町農村環境改善センターの「気中アスベスト調査」は毎年必要か。またその結果は。

教育課長 経年劣化により検査は推奨されていますが、数値自体は基準より下回っているため、今後については業者と相談の上検討します。

◎農政対策費

問 三川町の新しい農産物として、伸び行く作物に目を向け重点作物、選定作物の幅を増やしては。
産業振興課長 今後とも動向を注視し、関係機関と連携しながら作物の選定を行っていきます。



屋根の修理が行われる町民体育館



利用度が高い町有バス

広域での空き家対策を



空き家対策事業（三川町空き家バンク制度）

佐久間 千佳 委員

今後の交流事業のあり方は

◎土木費

問 庄内南部や北部の定住自立圏構想の中で、広域でのランドバンクのような空き家対策を検討すべきでは。

建設環境課長 南部北部定住自立圏での共通した取り組みについて、相手もあることから今後の課題として捉えています。

◎教育費

問 老朽危険空き家対策の緩和も検討すべきでは。

建設環境課長 特定空き家等については、国の特別措置法の改正を受け、町の空き家等対策計画にどのように組み入れていくか準備中です。

◎教育費

問 マクミンビル市との今後の交流は。

教育課長 コロナ禍の影響でこれまでの関係とは変わってきていますが、交流事業は継続していきたいと考えています。

新たな取り組みとして、他の地域ともオンラインでの交流等の取り組みを模索中です。



オンラインでの交流

子どもの視力低下の打開策は

砂田 茂 委員



きるようにしています。

町有林の今後は

◎財産管理費

問 小中学校健康診断結果で、視力の低下等眼科の所見数が多くなっていますが、その予防と指導は。

教育課長 タブレット端末やスマホ、ゲーム機などデジタル機器を使う時は室内の明るさに注意し正しい姿勢で適度な休憩をとり、寝る前はスマホを見ないなどの指導をしてデジタル社会に対応で

問 町有林の管理業務を村上森林組合に委託していますが、今後の考えは。

総務課長 契約期間の期限も含めて多くの課題があり、森林組合や国等の関係機関と協議を続けていきます。

県議会議員と 三川町議会との懇談会

7/20

田澤伸一県議会議員と庄内総合支庁の渡辺総務企画部長、早坂産業経済部長、佐藤建設部長との懇談会が7月20日、なの花ホールで開催され、治水対策から物価高騰支援策まで、幅広く意見交換が行われました。

赤川流域治水宣言を受け

令和2年7月の豪雨による最上川・赤川での災害発生により、令和3年3月の両河川の流域治水宣言を受け、今後の取組みが示されました。



フードバンクを支援
物価高騰への支援策として「生活

本町への対策として、

雨水貯留機能の向上、土地利用や住まい方の工夫、土のうステーションの確保や防災訓練の支援などが説明されました。

また、両田川橋については、令和2年度に点検を実施し、現在、補修設計を行っているとのこと。蛾眉橋についても同様に点検し、現在の塗装工事に続いて主桁、床板等の対策が予定されているとのこと。

困窮者等食料品等提供活動支援事業」に係る補正予算が、今年6月の県議会で可決され、生活困窮者等に対する食料品等の提供活動を実施する団体に対して、補助金を交付できることになった旨の説明がありました。

致道館中学校・高校は同一制服

令和6年4月開校予定の「致道館中学校・高等学校」の中学校は定員99人、高等学校は普通科200人、理数科80人でスタートするとのこと。

中学校・高校とも県下一円が通学区域となっていて、中学校のみ外部委託による給食が提供され、進学時に制服と運動着を買い替える必要がないよう同一デザインを採用するなどの説明がありました。

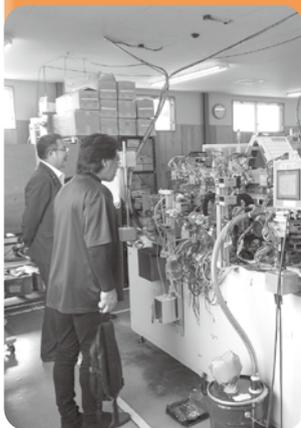
出羽商工会会長であり株ウエノ代表取締役社長でもある上野隆一氏を講師に迎え、講話に先立ち、世界的にも評価が高い「ノイズフィルタコイル」を機械による自動巻きで製造する三川工場の見学から始まりました。

出羽商工会との懇談会

9/29

＝世界的な

コイルたち＝ **(株)ウエノ**



電源用ノイズフィルタコイルとは、電磁妨害波対策に効果のある部品であり、円形等の金属部品の中から外に電線を巻き付ける作業を、ロボットアームによりの確に巻きつける工程には、目を見張るものがありました。

その後、出羽商工会三川支所に会場を移し、上野社長の起業当時から現在に至るまでの幾多のエピソードや心構えなどを拝聴することができました。

特に、切羽詰まった時は「直面する現実に真正



面から向き合う姿勢」が価値を生み出す基本であるとのこと。お話により、苦難を乗り越えられた心構えの一端を感じることができました。

講話の後は、三川町に工場進出を決めた理由など、上野社長への質疑応答が行われたほか、参加者同士による意見交換が行われました。

特に、プレミアム付き商品券の発行が町内商工業者にもメリットが大きいことから、今後も継続すべきであるといった考えなど、幅広い意見が交わされました。

町政を問う

9月定例会

一般質問



一般質問とは…

町政に関して議員が質問を行い、新たな政策の提案や意見を述べ、時には是正を求め、町政をより良い方向へ導くものです。

9月5日、5人の議員が以下の項目について質問しました。
●の内容を掲載しています。

小野寺 正樹 議員 (11ページ)

- 水田活用の直接支払交付金対象外の農地の拡大について
- 納涼祭と今後の関わりについて



議会ホームページは
こちらから
(音声配信中)

砂田 茂 議員 (13ページ)

- 自治体DXへの取り組みについて
- 学校のトイレへの生理用品の常備について

佐久間 千佳 議員 (12ページ)

- 地域福祉の充実を

鈴木 淳士 議員 (15ページ)

- 一般廃棄物処理の一部事務組合再構築について
- 桜木地区の宅地造成に伴う豪雨対策を

鈴木 重行 議員 (14ページ)

- ふるさと応援寄附金の推進を

耕作放棄地の拡大が懸念

町長 今後とも国の動向を注視

問

令和9年度から適用される水田活用の直接支払交付金対象外農地について、耕作放棄地の拡大が懸念され、同時に農家の所得減額にも直結するものと推測されます。対策も含め検討する必要がありますかと思えますが対応は。

町長

この交付金は農業所得の一部となっております。対象範囲の変更により、農業所得の減少につながることは容易に想定できることから、農業者の生産意欲の減退や、非作付け地の拡大、農業所得減少等の影響が最小限となるよう、今後とも国の動向を注視し、



おの まさき
小野 正樹 議員

関係機関と連携し対応していきます。

問

対象となる外の農地では参考賃借料の見直し計画も必要では。

農業委員会

この賃借料については、あくまでも

目安であり、これまでの農地状況や水利施設の問題など、農地そのものの状況や、委託者と受託者の関係性など、双方の協議により金額が決定されると理解しています。そのようなことから、水田活用の直接支払交付金の対象の有無による見直しについては考えていません。



耕作放棄地が懸念される河川敷

納涼祭との今後の関わりは

問

町の祭りに位置付けられている納涼祭は実行委員会形式で活動しているようですが、今後三川町としての関わりかたは。

町長

納涼祭につきましては、社会教育団体、商工会、町内のダンス愛好者等により実行委員会を組織し、地域の住民に楽しんでもらうための手作りの祭りとして始

まったものであり、8年前から規模を拡大して開催してきた夏の風物詩として定着しているイベントになっていっていると考えています。

町及び観光協会としましては、今後とも実行委員の一員として、手作りの祭り、皆さんが気取らずに楽しめる祭りとして開催されるよう事業に参画していきます。



躍動感あふれる納涼祭でのパフォーマンス

福祉拠点の充実は

町長 施設整備に努める



さくま ちよし 議員
佐久間 千佳

問 地域福祉の充実を図るには、拠点である社会福祉センター施設の機能整備、強化が重要と考えます。施設の活用、長寿命化、改修等の計画は。

町長 社会福祉センターは昭和59年に建設され39年が経過しています。これまでも老朽化による改修とともに、市民の利用形態の変化や要望等を受け、社会福祉協議会が中心となり対応してきました。

今後も地域福祉の拠点施設としての機能が十分に発揮できるよう、整備に努めます。

問 地域社会のつながりや、地域に対する関心の希薄化が懸念される中、地域福祉活動の進展が将来のまちづくりに大きく影響すると考えます。

町長 本計画は「誰もが生きいきと自分らしく健康で安心して安全に暮らせるまちづくり」を基本理念として、福祉のまちづくりや人材育成など、4つの基本目標を掲げ、広範囲にわたる施策に取り組んでいます。しかし、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響により、活動の縮小や中止せざるを得ない状況が続き、人間関係の

三川町地域福祉計画の推進に向けた現状と課題は。

町長 本計画は「誰もが生きいきと自分らしく健康で安心して安全に暮らせるまちづくり」を基本理念として、福祉のまちづくりや人材育成など、4つの基本目標を掲げ、広範囲にわたる施策に取り組んでいます。

しかし、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響により、活動の縮小や中止せざるを得ない状況が続き、人間関係の

状況が続き、人間関係の



福祉拠点となる社会福祉センター

希薄化が強まったのではないかと危惧しています。

今後ともアフターコロナ

ナの中で、すべての人が健康で生きいきと安心して暮らせる「地域共生社会」の実現に努めます。



有効化が望まれる
みかわつながるステーション

ボランティアセンターを有効に

問 各ボランティア団体の拠点として設置された「ボランティアセンター」の設置効果と課題は。

町長 ボランティア活動の推進、人材の発掘の取り組みを強化するため、社会福祉協議会が、改めてボランティアの拠点「みかわつながるステーション」ボランティアセンター」を

設置しました。課題として、ボランティアの高齢化や、人材の確保、活動内容の充実がありますが、福祉センターロビーへの看板の取り付け、ボランティアの紹介コーナーの新設等、ボランティア団体の活動強化や町民への啓発を図っていきます。

自治体DXで住民生活は

町長 行政手続きの利便性が向上

問 行政手続きのデジタル化を進めることで住民生活はどう変化していくものか。

町長 三川町DX推進計画には4つの基本理念があります。

一つ目は、町が担う行政サービスでデジタル技術やデータを活用し住民の利便性を向上させること。

二つ目は、デジタル技術やAI等の活用で業務の効率化を進め人的資源を行政サービスの向上に向けること。

三つ目は、多様な主体によるデータの円滑な流通を促進し、行政の効率化・高度化を推進すること。



すなだ しょう 砂田 茂 議員



DXってなに？

と。

四つ目は、多様な主体との連携により民間のデジタルビジネスなど新たな価値等が創出されることです。

今後、新たなデジタル技術を積極的に活用することで行政手続きの簡便

化・効率化、利便性の向上が見込まれます。

問 情報システムの標準化・共通化に必要な基幹システム全体の再構築にあたっての課題は。

町長 システムの移行や改修、維持管理に伴うコスト、データ連携及びセキュリティ対策に係る人材の確保があります。

問 自治体DXのデメリットは。

町長 システム導入や運用に係るコストと時間の増大、個人情報や機密情報を取り扱うことでのセキュリティリスクの高まり、デジタル人材や住民理解の不足、デジタルに不慣れな方に高いハードルが生じることなどが挙げられます。

学校トイレに生理用品を

問 トイレレットパーパーと同じように学校のトイレに生理用品を常備することに子ども

の尊厳という視点からの考えは。

教育長 生理用品は保健室に常時保管し、必要な児童生徒から申し出があった場合に無償で使うことができるようにしています。

常備については管理上、衛生上の問題があり考えていません。

また、保健室で生理用品を受け渡す時には養護教諭が子どもへの尊厳について十分配慮し声をかけながら手渡ししています。



生理用品の常備の例

ふるさと応援寄附金の推進を

町長 寄附者の獲得に努める



鈴木 重行 議員

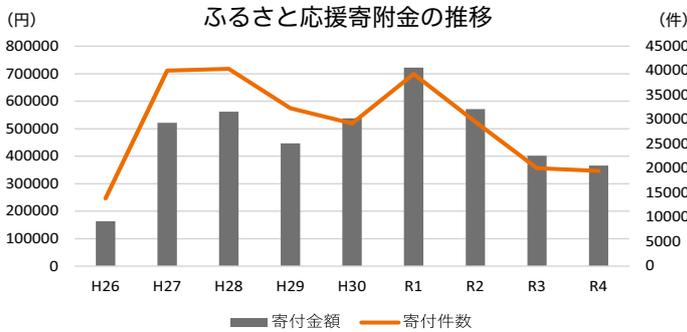
問 貴重な自主財源となる「ふるさと応援寄附金」の近年の実績は。

町長 令和元年度の約7億2千万円をピークに減少傾向にあり、今年度においては3億6千万円前後になるものと推測しています。

問 寄附者獲得の取り組みは。

町長 ここ数年、寄附件数・金額とも減少していますが、毎年ご寄附くださる方々を大切にしながら、魅力的な返礼品の提供に努めています。

また、寄附の窓口となるポータルサイトの複数



町長 ふるさと応援寄附金業務を市町の特

問 ポータルサイトの企画・運営を中間業者に委託し、更なるプロモーションの強化を図るべきでは。

プロモーションの強化を

町長 望郷みかわ会の総会時での寄附の依頼や、SNSを使った町のお米の食べくらべのPR、寄附者との交流会やサイトを通じた意見交換会を開催するなど寄附者の獲得に努めています。

問 寄附者を獲得するには特徴的な取り組みが有効と考えますが、本町では。

設定や、都市部の新聞広告・雑誌広告に掲載するなどより多くの方々の目に留まるよう寄附をしていただける環境づくりに努めてきました。

性に合わせて、外部に委託

している自治体もありません。本町においては、返礼品の提供事業者との直接的な意見交換や情報交換を行うため産業振興課内にふるさと応援推進担当を配置し、1つのチームとして成果や課題を共有しながら業務にあたっています。

要望や苦情に対しても迅速・丁寧に対応できていると評価できるものと考

町長 返礼品の登録事業者は35名、返礼品は777品目となっており、専任の地域おこし協力隊の雇用は考えていません。

問 専任の地域おこし協力隊を設置し、返礼品となる特産品の開発・普及に取り組むべきでは。



寄附を呼びかけるポータルサイト

ごみ処理は元の一部事務組合方式に

町長 鶴岡市と話し合い慎重に対応したい

問 廃棄物処理に関する新たな協定書を令和3年3月に鶴岡市と締結するとき、「1」尿・浄化槽汚泥施設整備基本計画策定業務負担割合」が記載されていた「委託料の算定要領」を一緒に説明しなかつた理由は。

町長 必要に応じて議会に説明し、その都度、議決を得てきた経緯にあります。

遡れば10数年前になりますが、本来の一部事務組合を継続してもらえらという選択肢があれば、本町として違った対応ができたはずですが、鶴岡市の考えにより受委託という方式になったもので



すずき じゅんし
鈴木 淳士 議員



鶴岡市新焼却施設

一部事務組合を再構築すべき

あり、最終的には議会の判断として本町の対応を進めてきました。

問 近年は、将来的な処理施設整備計画費用までも委託料として請求する拡大傾向にあり

ます。

市町村合併を拒否した結果により現在の状況を招いた町長の課題として、一部事務組合の再構築を鶴岡市に働きかけては。

町長 ひとつの選択肢として、機会を捉えて鶴岡市長に話を行うことができるものと思えます。

県内には、尾花沢市と大石田町の一部事務組合の事例もあり、相手のあることですので慎重に対応していきます。

桜木住宅団地に豪雨対策の調整池が必要では

問 桜木地区が越水するほどの豪雨であれば町全体が浸水被害という答弁もありましたが、農業用排水路は宅地開発の排水基準の6割程度であり、桜木地区から流出する雨水を一時的に貯水するためにも、鶴岡市美咲町にあるような貯水機能型の公園を整備し、想定外の豪雨に備えるべきでは。

建設課長 令和元年度に押切地区全体の排水対策として、三本木地内排水路改修のほか、複数の農業用排水路に流入するよう計画するなど十分対応できるものと考えていることから、新たな調整池の設置などは考えていません。



鶴岡市美咲町の調整池

想定外の豪雨には「備え」が必要

がんばってます

昭和47年に結成し、51年経過しました。現在のメンバーは30代〜70代の18人です。コロナ禍の3年間は介護職、医療従事者、職場の規制等で練習も出来ず、チームの存続も危ぶまれる程でした。世の中も平常に戻ってきた今春、自分の子どもがスポ少のバレーボール

への入部を機に、復帰してくれたメンバーもあり、やっとチームを組めるようになりました。週2回、火・金曜日の夜7時30分〜9時30分まで町民体育館で練習しています。鶴岡地区大会は年5回、その中で県大会に繋がる大会が4回ありま

す。今年7月のYTS地区予選会で優勝を果たし、9月に県大会に地区代表として出場しましたが、互角の戦いは出来たものの久々の県大会であり、力を存分に発揮できませんでした。しかしながら、三川町民だけの限られた人達で構成するチームでもあり、チームワークの良さは他に勝ると思います。

めにも繋ぐ力を強化すれば抜きん出たチームになると思います。バレーボールは楽しくなければ長続きしません。仲間と交流して生涯現役スポーツに！練習でも試合でもいいプレーをした時「よし！」「やった！」とガッツポーズをし、チーム一丸となり、自らの肯定感を高めていきたいと思えます。

監督 小林 智子

ママさんバレーボールチーム なの花クイーンズ 「仲間と交流・生涯現役スポーツ」



チームの力でアタック

加えて、アタック陣の攻撃の威力は庄内でもトップクラスで破壊力は目を見張るものがあります。アタッカーを生かすた

編集室

9月議会ではより多くの方に傍聴にお越しただけるよう、夜間議会として夕方6時から5人の議員が一般質問を行い、当局と議論を交わしました。

議員からは様々なテーマへ意見や提案がありました。傍聴席は寂しい結果となりました。一度、傍聴にお越しになりませんか。

今号から読みやすい字体に変更しました。読みやすく、わかりやすい広報の編集を心掛けていきます。

鈴木 重行

「中学生との

議場懇談会」

(写真) 町野 昌弘



【表紙の写真】

発行責任者 議会議長 志田 徳久
編集 広報常任委員会
委員長 佐久間千佳
副委員長 町野 昌弘
委員 鈴木 重行

委員 鈴木 淳士
委員 砂田 茂
委員 小野寺正樹